

知りたい! 地域のあれこれ ④

# 民生児童委員ってどんな人?



鎌田地区では、誰もが安心して暮らすことができるよう、民生委員・児童委員、主任児童委員が様々な活動をしています。どんな活動をしているのか聞きました。



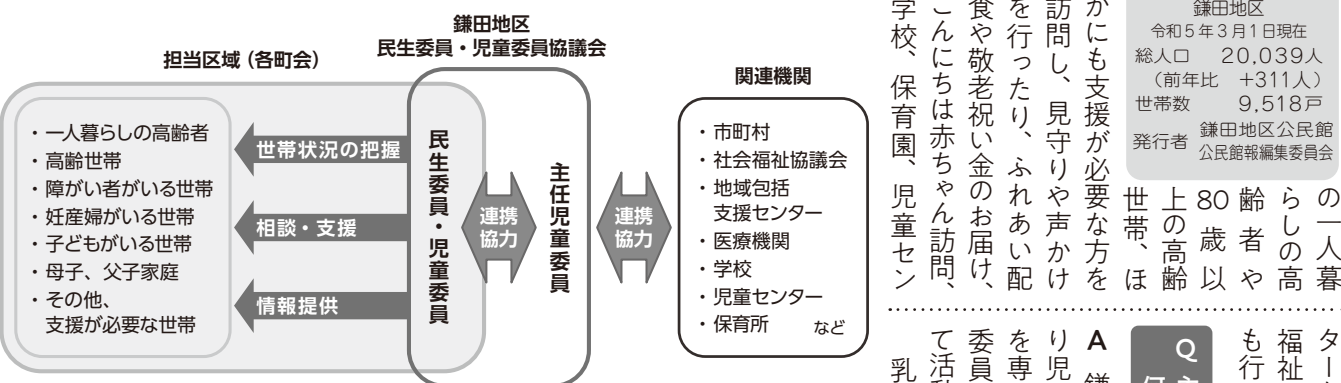
月に1回の定例会では福祉制度の勉強や情報交換を行っている

**Q** 民生委員・児童委員は何をしているの

**A** 地域で困っている人の身近な相談に応じ、援助や行政・福祉サービスに橋渡しをする活動のほか、子ども、妊産婦、母子家庭に関する相談支援や情報提供など子どもを育てる取り組み、児童虐待防止などの活動をしています。具体的には、75歳以上



鎌田地区  
令和5年3月1日現在  
総人口 20,039人  
(前年比 +311人)  
世帯数 9,518戸  
発行者 鎌田地区公民館  
公民館報編集委員会



ターなどの行事への参加、福祉や防災に関する活動も行っています。

**Q** 主任児童委員は何をしているの

**A** 鎌田地区全体にわたって児童福祉に関する活動を専門的に担当し、民生委員・児童委員と連携して活動しています。

**Q** 任期はどのくらい

**A** 1期3年です(再任可)

**Q** 鎌田地区に委員は何人いるの

**A** 主任児童委員2人を含め31人です。

**Q** 個人情報を守られているの

**A** 個人情報を適切に取り扱うことは「基本的人権の尊重」にかかわることです。家族に対しても情報を漏らすことはありませんので、安心してご相談ください。

## キラリ☆ かまだびと

### 地域福祉を支える一員として課題を受け止める力をつけたい



鎌田地区民生委員・児童委員協議会  
会長 **牛山 喜嗣**さん  
(72歳・笹部町会)

民生児童委員3期目で、会長として鎌田地区31人の委員のまとめ役。民生委員が見守り活動のなかで直面する課題は多岐にわたっており、その解決に向けては、「毎月の定例会の充実が大切。研修や委員同士の情報交換で得た学びを日常の活動に活かしていきたい」と話す。

### 雑感

野菜づくりのシーズンとなってきた。庭の片隅に10坪ほどの畑があり、大根・ジャガイモ・トマト・葉物類など多種類の野菜を栽培し食材としている。生ごみはコンポストで完熟堆肥として、落ち葉、藁くずと混ぜて畑の土に戻す。大敵は雑草だ。半月ほど何もしないと一面が草で覆われる。対策は雑草が小さなうちに抜き取ること。これが最も面倒だが、草が繁殖しないよう努力している。▼無農薬栽培を心がけているが、害虫対策がやっぱり。ジャガイモはてんとう虫だまし、キャベツ類は青虫が取り付き、葉っぱを食い荒らす。アブラムシの駆除は難しい。不思議にレタスやネギ類には害虫が取り付かない▼毎朝、野菜の育ち具合の観察と同時に害虫駆除するが、青虫は葉っぱと同色なので見落とすことが多い。トマト、ナス類は連作障害が発生する。毎年作付け場所を変えることは狭い畑では難しいが、ありがたいことに接木苗により連作障害を気にしなくても良くなった。今年も色々の野菜を育て美味しくいただきたい。(松本捷幸)

街かどの話題 152



高宮町公民館の講堂がリニューアル

高宮町公民館は昭和43年に新築され、町会や地域住民の活動拠点として、また災害時の避難場所や集団検診、各種選挙の投票所など、必要不可欠な施設として利用されてきました。

築後50年以上経過した建物は老朽化が進み、平成23年の松本地震では外壁に亀裂が入るなど耐震上にも問題があることから、平成28年に「公民館建設準備委員会」を設立し、種々の検討を進めてきました。

講堂耐震診断の結果を受け、令和3年に改修内容、予算の検討を行い、令和4年に改修工事を着手しました。

12月に完成した工事の概要は、鉄骨柱は流用し、耐震対策として地中梁と基礎の増し打ち、筋交いの増強などを実施。既設ステージの撤去、壁や床の張り替え、屋根や壁の防水加工塗装、照明のLED化も行い、会議や避難所、スポーツの練習会場として利用しやすい、明るい講堂に改修されました。

総事業費は約3900万円、積立金と市補助金を充当しています。

改修された講堂は、さっそくソフトボールや卓球、空手教室などに利用されています。

小岩井町会長は、「公民館は町会のリビング。リフォームされた公民館に町民が集まり談笑していただけたら嬉しです」と話しています。



新しくなった講堂でソフトボールを楽しむ高宮町会の皆さん

鎌田地区が地域づくり活動の成果を発表



笹部町会の皆さんが第2分科会に参加した市民に活動を発表

題の多い地域社会の今後のあり方を熱心に討議しました。

第2分科会は、子どもが主体となる伝統行事の継承がテーマとなり、笹部町会が活動事例を発表しました。

コロナ禍で中止が続く危機意識からPTAが中心となり、6年生が参加する「青山様・ほんぼんの伝承会」を開催、児童会新聞を作成し町内全戸に伝統行事の意義を伝えました。

住宅地で行う「三九郎」は、火災への不安感の払しょくや松飾りの集め方の工夫など、町会の丁寧な対応により問題なく実施することができました。伝統行事を行う意味を学

郷土料理講座がスタート!

鎌田地区公民館文化委員会主催の郷土料理講座が始まりました。

初回のテーマは長野県民にはお馴染みの「おやき」。講師は文岳堂(高宮町会)から藤井絹子さんをお迎えし、2月1日と3月1日に開催しました。

生地作りや具材の包み方のポイント、蒸した後にフライパンで両面に焦げ目をつけることなどを教えてもらい、美味しくおやきが完成しました。参加者からは「意外と簡単にできた。家でも作ってみたい」と感想が寄せられました。

今後も参加者のアンケートを基に、長野県の郷土料理を作っていく予定です。



講師の手元を見ながらおやきを作る参加者たち

両島の足半草履



「お八日念仏と足半」は国の選択無形民俗文化財

コロナ禍が落ち着いた2月11日、両島の伝統行事「お八日念仏と足半」が3年ぶりに保存会の皆さんにより執り行われました。

出来上がった足半草履は町内の北と南の境に掲げましたが、北境の草履は昔の場所に戻りました。案内板も新しくなりましたので、ぜひ見学してください。

んだ子どもたちは、三九郎では積極的に喜んで関わるようになっていました。第4分科会「顔が見える関係づくり」気軽に使える町内公民館」の事例発表では、鎌田地区公民館主事の川西さんが、町内公民館と連携した地区スポーツ委員会の出前講座の取り組みを紹介しました。常に、住民の住みよい豊かな生活を願って努力されている鎌田地区の活動が、多くの地域の参考となったことは大変誇らしいことでした。